

単元名 作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。
 (2) 文章を読んで理解したことに基づいて、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることで、自分の考えをまとめることができる。
 (3) 表現や構成等に注目して作品世界を捉え、自分の考えを書こうとする。

標準的な展開例

06010206_001

【教材名】やまなし／イーハトーヴの夢 (P. 103～P. 127)

【準備等】宮沢賢治の作品、ワークシート、交流カードや付箋

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>★作品の世界を捉え、自分の考えを書こう。</p> <p>○教科書 (P. 103) の題名や写真から物語を想像する。</p> <p>○「やまなし」の題名と冒頭の一文から情景を想像する。</p> <p>○「作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう」という学習課題を設定して、教科書 (P. 124～125) を参考に学習計画を立てる。</p> <p>2～3 「やまなし」の世界を捉える。</p> <p>○「やまなし」を読み、二枚の青い幻灯に描かれた谷川の様子を簡単な絵や図で表す。</p> <p>○感想を交流する。 〈三つのポイント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場してくるものは何か。 ・作品全体から受けるイメージ。 ・2枚の幻灯 (五月と十二月) の様子の違い。 <p>○資料「イーハトーヴの夢」を読む。</p> <p>○賢治の生き方や考え方について話し合う。</p> <p>4～6 「やまなし」を読み深める。</p> <p>○「五月」の谷川の様子を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「五月」の場面を音読する。 ・谷川の様子が分かる言葉や文を見付け、簡単な絵や図に表す。 ・「かわせみ」の出現で変化していく「かのにの親子」の様子を読み取る。 ・心を引かれる言葉や表現から、その情景を想像する。 <p>○「十二月」の谷川の様子を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「十二月」の場面を音読する。 ・谷川の様子が分かる言葉や文を見付け、簡単な絵や図に表す。 ・「やまなし」の出現で変化していく「かのにの親子」の様子を読み取る。 ・心を引かれる言葉や表現から、その情景を想像する。 <p>○「五月」と「十二月」の違いについて、感じたことを話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・賢治の作品を数多く用意し、いつでも手に取れるようにしておく。 ・これまでの音読・朗読学習を振り返らせる。 ・宮沢賢治について知っていることを挙げさせる。 ・これから楽しく読み進めていくことができるように、題名や冒頭の一文から受けるイメージについて自由に想像させる。 ・これまでの物語の学習を教科書 (P. 9～10) 「五年生の学びを確かめよう」で振り返らせる。 ・作品を深く読み味わう方法の一つとして、同じ作者の作品を読み広げたり、作者自身の生き方を伝記などで知ったりすることができるということを知らせるとよい。 ・読む前に、三つのポイントを示し、それについて感想を交流することを知らせておく。 ・作品が長文なので、読む時間を十分に取る。 ・教科書にサイドラインを引かせたり、ノートやワークシートにまとめたりすることで、賢治の生き方や考え方に迫らせる。 ・板書するときは、児童から出た意見を、言葉・行動、理想、作品の観点で分類すると分かりやすい。 ・賢治の生き方や考え方の基となった出来事などを、年表にまとめてもよい。 ・「やまなし」に通じるところがないか考えさせる。 ・自分なりに捉えたことを、本文の叙述を根拠にして発表させるようにする。 【評】作者について話し合う活動を通して、その生き方や人物像について想像する「思考・判断・表現」を評価する。 ・かのにの会話や様子、水や光の様子、色、上から来たものに注目させて、五月の谷川の様子を想像させる。 ・明るく動的な雰囲気が表れていることを感じ取らせる。 ・魚の突然の死について、考えさせる。 【評】読み取りの活動を通して、表現の工夫に気付く「知識・技能」を評価する。 ・かのにの子らの成長に気付かせ、言葉と行動に着目させて、情景を読み取らせていく。 ・「五月」同様、かのにの会話や様子、水や光の様子、色、上から来たものに注目させて、十二月の谷川の様子を想像させる。 ・「やまなし」の静かな死について、考えさせる。 ・これまでに、読み味わってきた様子を思い浮かべさせる。 ・上から何かが谷川に入ってくる出来事は同じでも、それによって与えられたものには違い

- 作者がなぜ「十二月」にしか出てこない「やまなし」を題名にしたのかを考える。
- 作者が作品に込めた思いや考えについて、自分の考えをまとめる。

7～8 感想を交流する。

- 書いたものをグループで読み、感想を交流する。

- 学習を振り返る。

があることを押さえる。

- ・ 必要に応じて、自分が描いた情景の絵や図を提示させながら、話し合わせてもよい。
- ・ 理由を明確にして、自分の考えをまとめさせる。
- ・ まとめる内容や表現については教科書（P. 124～125）を参考にさせる。

【評】自分の考えをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 友達の考えと似ているところや、違うけれども納得したところなどを伝え合うようにさせる。

【評】感想を交流する活動を通して、作品の世界を自分なりに捉えようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・ 「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を確認させる。
- ・ 「この本、読もう」で読書を広げる観点を確かめるとともに、二次元コードを活用して読書への意欲をもたせる。

【 備 考 】